

# 赤野井湾のビームトロールによる水田流下稚魚調査

藤岡 康弘・太田 滋規

## 1. 目的

琵琶湖南湖にある赤野井湾の水産資源の再生をめざして、周辺の稲作水田を利用してニゴロブナおよびホンモロコ稚魚の生産と放流が実施されている。水田から赤野井湾内へ流下したそれら稚魚の確認を行う目的で、湾内でビームトロールによる魚類の捕獲調査を6月から7月にかけて実施したので、その結果を報告する。

## 2. 方法

赤野井湾周辺水田には5月18日から30日にかけてホンモロコとニゴロブナの孵化仔魚が放流された。これら仔魚にはALCにより耳石標識が施されている。水田からの稚魚の流下は6月16日から20日にかけて実施された。このため6月25日から7月14日までの期間に4回にわたり赤野井湾内の3か所で底曳網の1種であるビームトロール網を用いて水田からの流下稚魚の捕獲調査を実施した。ビームトロール網の曳網時間は3分間とし、この間の曳網距離は75～98mであった。捕獲した魚介類は氷蔵して持ち帰り、種を同定して個体数を計数した。フナおよびホンモロコ稚魚があれば標準体長を測定した後、耳石を取り出して標識の有無を確認した。

## 3. 結果

4回にわたる調査で、魚類は1534個体、甲殻類は14個体が捕獲された(表1)。最も多く捕獲された魚類はオオクチバスで926個体であった。次に多かったのはブルーギルで275個体であった。続いてヨシノボリ類が109個体を占めた。その他10個体以上捕獲されたのは、多い順にモツゴ(61個体)、ツチフキ(50個体)、ヌマチチブ(26個体)、ゼゼラ(21個体)、ビワヒガイ(20個体)、フナ類(17

個体)、ワカサギ(16個体)であった。他にはスゴモロコ、オイカワ、カネヒラ、ニゴイ、カマツカが捕獲された。甲殻類は、スジエビが13個体とアメリカザリガニが1個体であった。捕獲された魚類全体の中でオオクチバスとブルーギルが78.3%を占めた。一方で、環境省のレッドリストで絶滅危惧種に指定されているゼゼラやツチフキが捕獲された。

水田放流魚は、ホンモロコは全く捕獲されなかったが、フナ稚魚17個体が捕獲できたので耳石標識を確認したところ、13個体で標識が確認できた。

表 1 赤野井湾で捕獲された魚介類

種類名	捕獲個体数
オオクチバス	926
ブルーギル	275
ヨシノボリ類	109
モツゴ	61
ツチフキ	50
ヌマチチブ	26
ゼゼラ	21
ビワヒガイ	20
フナ類	17
ワカサギ	16
カマツカ	4
カネヒラ	3
ニゴイ	3
スゴモロコ	2
オイカワ	1
スジエビ	13
アメリカザリガニ	1